様　式　Ｃ－７－１

平成２５年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号　３２６０４

2. 研究機関名　大妻女子大学

3. 研究種目名　基盤研究(A)

4. 研究期間　平成２３年度～平成２６年度

5. 課題番号　２３２４００９８

6. 研究課題名　アジア採集狩猟民児童～大都市児童の発育発達多様性と環境の相互作用、含む標準値作製

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
５０１１４０４６	オオサワ　セイジ 大澤　清二	人間生活文化研究所	所長

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名

9. 研究実績の概要

通文明的な視点から、子どもの身体機能の発達の様相を知ることと、その標準値を目指して日本、東南アジア、ネパールに大規模な調査を行い、合計4万人について58項目（粗大筋運動機能、微細筋運動機能、生活技術能力）のデータを収集した。民族を分類すると、狩猟採集民としてモーケン（ミャンマー）と定住化が進むムラブリ（タイ）、高地に秘境的農業社会を作るナーガとネパールの高地民シェルパ、定住し人力による農業で生きるタイの山地民モン、カレン、ラフ、ミャンマーのカヤー、パダウン、カイン、ミャンマー深部シャン高原のシャン、カウ、コーカン、カムティーシャン、パオ、特異な農業を行うインレー湖の民インダー、タイとミャンマーの中山間地から低地に分布するヤカイン、タイヤイ、タイライ、そしてカーストによる垂直分布構造をもつネパールの高カーストのチェトリ、ブラーマンからコイリ、ヤダブ、低カーストのカミ、ムサハルである。一方都市化社会から農村という構造においてはミャンマーのヤンゴンと農村という視点でビルマ、モン、インド、漢人のデータを収集した。一方比較対照群として日本人（岐阜、千葉、山形、山梨）3千人のデータを収集した。このように本研究は世界的にも稀な大規模な身体発達データを集積し、今なおこれを継続中である。ここでは平地から高地に至る垂直分布的な位相をなす多様な自然環境下における子どもの発達の諸相を明らかにするとともに、狩猟採集民から都市民という文明的な遷移を視野に入れたスコープで発達を捉えることを試みている。今もデータ収集活動は継続しており、収集データは日本及び現地においてデータ整理・入力・解析をしている。解析結果は日本発育発達学会などで公表している。様ざまな環境下で人がどのように発達してゆくかをグローバルな視点から生態学的に検討しており、解析結果を日本発育発達学会などで発表している。